

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491200200		
法人名	株式会社宮城登米広域介護サービス		
事業所名	グループホーム憩いの里かがの	ユニット名	
所在地	宮城県登米市中田町石森字加賀野2丁目26-2		
自己評価作成日	令和 4年 10月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域とともに、笑顔と喜びを感じられる充実した生活が送っていただけるように、一人一人に寄り添いながらサポートに努めております。食事は手作りし行事食なども取り入れ壁面装飾や、ボランティアの協力をいただきながら畑づくりなど季節を感じられるよう、利用者の方々と共に居心地の良い環境づくりに取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年 11月 17日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム「憩いの里かがの」は、登米市役所から国道346号線を中田方面に車で10分程の住宅地の一画にある。コロナ禍で祭り等地域の行事はないが、ウッドデッキが道路に面しており、散歩で通る地域の方々立ち寄り、挨拶を交わすなど、日常的に地域住民との触れ合いが多い。目標達成計画に掲げた「家族の意向を汲み、今まで以上寄り添った支援」は社内研修の充実で達成している。共用デイサービス利用者と一緒に活動している。住民から旬の野菜や年中行事に欠かせない七夕用の笹竹、干し柿用の渋柿が届けられる。近隣住民の防災委員が避難訓練に協力する等、地域密着型を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホーム憩いの里かがの** )「ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所会議開催時に確認しており、事務所内に掲示してある。職員と話し合い、継続している。	ユニット理念「地域とのふれあいを大切に」「優しく笑顔で」を年度末に見直し、職員で話し合い継続とした。日常の地域住民との交流を大切にし、入居者の言葉や行動等を理解し、明るく笑顔で接する事を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	防災協力員として、近隣の方に協力をお願いしホットラインに登録している。畑づくりを手伝っていただいている。地域の方々が犬の散歩などで立ち寄り下さる。日常会話で相談を受けたことがある。	散歩途中に立ち寄りの方、旬の野菜を届けてくれる方、畑の作業を手伝ってくれる方等地域住民との関係は良好である。今年度も七夕飾り用の竹や渋柿をもらい、干し柿を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	共用型デイサービスを行っており現在登録者は5名。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染防止のため、開催を見送り利用者の状況と活動状況の報告を書面をもって報告し、質問に対しては次回の会議資料で回答をしている。	書面会議を年6回奇数月に開催している。メンバーから地震や大雨(水害)時の被害状況、緊急時の連絡先(身元引き受け)等について意見・質問があり、次回の会議資料で回答している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	研修開催等の情報や、感染対策の情報など適宜メールで知らせがある。日常的に相談できる関係が出来ている。	看取り期に入った生保の方の転居について、行政の担当者や医師と連携し仙台の施設に移動した。市のコロナ対策室と連携し、ホーム内でワクチン接種をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	保安の為、夕方から朝まで施錠しているが、それ以外は解錠している。スピーチロック等身体拘束の研修を行い委員会を設けている。利用者は自由に玄関やウッドデッキに入りしている。	年4回身体拘束、虐待防止の研修会を実施している。自己チェックリストを用いて、職員の振り返りを促している。転倒防止の為、床センサーを使用している方がいる。帰宅願望のある方は、トイレに誘導したり、一緒に散歩やバス停に行くなどの対応をしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の芽のアンケートの実施や、虐待についての研修を行うとともに、日頃から職員がお互いに情報の共有を行い注意を払ってケアの向上、虐待防止に努めている。	虐待防止に向けた自己チェックリストを用いて自己確認し、虐待防止に努めている。独りで抱え込まないよう職員同士が助け合う環境にある。また管理者は職員と常時話ができる環境づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	通常、法人全体の研修会で研修を行っている。また、近い事例があった場合に、管理者から説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には納得頂けるように説明し、時には入所前にご家族と打ち合わせを行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時や通院介助時、近況を伝える際にはご意見を伺っている。必要な物については、職員と情報を共有している。	面会時(ウッドデッキ・窓越し)や通院時に意見要望を聞いている。骨折して車いすになった方の家族から「出来るだけ歩かせて」の要望にリハビリを取り入れた。入居者が好きな菓子の差し入れがあり対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	サービス会議等での意見を法人の管理者会議で発表したり、また管理者が社長と直接相談が出来る体制になっている。	職員の意見で、廊下の軋み防止の工事やプリンター・電話機を買い替えた。資格取得等の費用は会社が負担している。今年実践者研修に1名参加している。勤務時間の変更等の要望に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施し、賞与に反映。また、年1回社員が直接社長に自己申告書に意見を記載し提出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育研修室の部署があり、社内研修の企画と実施を担っている。また、新卒者の教育担当者を配置し、1年計画で教育指導を行っている。事業所内会議では毎回研修を行い、随時外部のリモート研修など活用している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	登米市介護保険事業者連絡協議会に、入所施設部会の会員になっており、研修についてはコロナ渦のため訪問はせず、リモートで参加している。訪看や医師の往診の際は情報共有に努めケアの向上に「勤めている。	登米市連絡協議会のコロナ感染防止対策の研修にリモートで参加し交流している。地域の調剤薬局と連携し、服薬や管理について相談している。家族に同業者がおり、オムツの当て方や感染対策等意見を交換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に実態調査を実施。入居決定後に入居事前打ち合わせの際に、不安や要望等を伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に実態調査を実施。入居決定後に入居事前打ち合わせの際に、不安や要望等を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前、心身の状況や生活状況、家族状況を含めて話し合い、本人にとって必要な生活環境や他のケアサービスについて、担当ケアマネージャとの情報交換を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や炊事等、本人が得意としていること、出来る事や出来る可能性があることを一緒に行う中で可能性を追求している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	心身の状況や生活状況を伝え、家族としてできる役割(会食や散歩等)、関わりを一緒に考えるようにしている。また、「かがのだより」や写真の掲示で、実際の生活の様子をお知らせしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に電話し、また散歩中にご家族が来所される。ソーシャルディスタンスを取り、テラスなどで感染予防をしながら面会している。	春には近くの公園や寺社の桜、米山のチューリップを見に車で出掛けた。家族が犬の散歩中に立ち寄り、甥や姪、孫等の親族が訪ねて来て、ウッドデッキで面会する方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前中、通所利用者の方々と体操やレクリエーション、午後のおやつ後の談話や塗り絵等を行い、職員が間に入り代弁や会話の仲介を行って、孤立しないようにしている。午睡以外はほぼ全員がホールで過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された入居者のご家族が、現在も畑の耕運や野菜作りの助言をして下さっている。施設転居されたご家族から、相談を受けた際本人の在籍中の様子や生活のヒントなどお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	新聞の読み上げや会話から生活背景や価値観が垣間見え、それをフィードバックして関係づくりを行う。その情報は職員間で共有する。	新聞読み上げでは、事件・事故やクマ・イノシシの出没等に感心が高い。言葉で伝えられない方には、ゆっくり単語で話しかけ、反応をみながら対応している。痒みを訴える方に痒み止めやアロエクリーム等に対応した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の生活の様子や会話の内容等をご家族へ伝えることで得られる情報等、面会時や電話連絡の際ご家族とできる限り面談して、情報に共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方を確認すると共に、表情や行動を観察しながら把握に努め、必要に応じて主治医や訪問看護師に相談している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一回全職員から、モニタリングした内容を提出してもらい、それを取りまとめ話し合いを行い計画に反映している。	ケアプランの見直しは短期6ヵ月、長期1年である。毎月各職員がモニタリングチェック表を提出し、計画作成担当者が作成している。家族からは今の状態を継続して欲しいとの要望が多い。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況、また主治医やご家族からの意向等を介護記録・支援記録に記載している。必要な内容については、朝夕の申し送り、または抜粋したものを会議で話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の事情により通院介助を行い、また施設内での点滴や処置等、主治医、訪看と連携しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	犬の散歩や隣接するごみ集積所にゴミ出しに来た方や、近隣6軒の防災協力委員の方々と、ソーシャルディスタンスを保ちながら挨拶や言葉を交わしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診介助を依頼されている方、在宅診療の方以外のご家族には、バイタル表や変化を口頭もしくは文章で医師に相談してもらうようにしている。	在宅診療所と4名が契約し、月1回の訪問診療を受けている。協力医療機関への通院時には、バイタル表や生活状況の変化等を伝えている。訪問看護師は毎週来訪し、バイタルチェックや食事量等を管理している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	登米市訪問看護ステーションと契約。毎週水曜日に診て頂いている。その際、受診時の状況やその経過を報告し、また医療面に関する相談助言を頂いている時に、看護師から主治医へ直接連絡し、指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医師への情報提供、また退院時のカンファレンスに出席している。その後の経過についてご家族と情報を共有しながら医療機関との関係づくりに努めている。入院中は、洗濯物の入れ替え等協力している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、医療職不在の体制の為、医療行為が発生した場合、施設で出来る事を説明し、看取りを行う体制が整っていない事、また状況に応じて生活について相談しながら最善策を共に考えるようにしている。看取り期の方1名主治医紹介により施設転居しております。	入居時に成文化した「重度化した場合における(看取り)について」を説明している。座位が保てない、食事が摂れない状態になった際には、家族・医師等と相談し他施設への転居を支援している。今年は1名の方が転居している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の確認作業と連絡方法については周知している。その他、訪看が来所時に助言指導して頂いている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣6名の方に防災協力員として了承を得て、緊急自動通報装置に登録、火災時は自動で連絡する体制があり、合同の訓練を毎年行っているがコロナ禍のため見送っている。	夜間・地震想定を含み年3回避難訓練を実施した。近隣6名の方が、自動通報装置に登録しており、直ちに駆けつける体制にある。消防署員からは、玄関以外の避難口も検討するよう指導があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待の芽アンケート実施。不適切な言葉遣い等の研修を行っている。また一人一人の性格や価値観、症状を理解し感情の動きに応じたコミュニケーション方法を話し合い、理念に沿ったケアの実現を目指している。	「さん」付けで呼ぶが、入居者が落ち着かない様子の時など「ちゃん」付けで声掛けすると、若い頃を思い出すのか穏やかな表情になる方がいる。入室は必ず本人の許可を得て行き、入浴は同性介助を配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話から、思いやこだわりを知ることがあり、個々の性格に応じてすぐに行動に移したり、内向的な方には一緒に考え決定を働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中は認知症進行予防、転倒予防の体操を中心に実施し、進行については利用者の方々の意見を伺ったりして進めている。居室でのテレビ観賞やウツデッキでの日光浴、畑作業などされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え等の衣類を一緒に選んだり、鏡の前で整容の手伝いをしている。理美容院についてはコロナ禍の影響の為、本人や家族と相談しながら状況を見て対応している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍のため、調理全般と配膳は職員が行うが、ワゴンや流しへの下膳は行って頂いている。	献立は法人の栄養士が作成している。調理は職員が交代で行い、嚥下力に応じて食形態を変えている。食後の片づけは一緒に手伝う方もいる。近隣住民からの差し入れや敷地内で収穫した野菜が食卓を彩っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人のデイサービスの栄養士が作成した献立に従い、個々に応じた調理をしている。また1日の水分量を把握すると共に嗜好に応じてコーヒーやお茶等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや口腔清拭、義歯の洗浄を個々に応じて介助している。1名の方が予防歯科医院に通院しており、受診時の指導内容をほかの利用者に活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を主とし、排泄チェック表から個別の排泄周期に基づき、また表情や仕草からサインを導き、排泄の支援を行っている。	排泄チェック表で排泄間隔を把握し、時間での誘導をしている。ソワソワする、廊下を気にして見る等のサインから随時誘導し、トイレでの排泄に努めている。夜間は安眠を優先し、巡回時様子を見てトイレ誘導や交換を行う。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便周期に応じてできる限り下剤に頼らない自然排便を目指している。また、随時医師と相談して下剤の調整を行い、水分量の把握や運動に配慮している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	予定は組んでいるが、気分が乗らなかったり活動に夢中になっている場合は、日時をずらしたり、認識が困難な方は、誘導役と介助役と職員間で連携して、気持ち良く入浴できるようにしている。	週2～3回を基本に入浴している。季節の菖蒲湯やゆず湯を楽しんでいる。一番風呂や夜入りたい等の希望に応じている。脱衣所はエアコン及びヒーターで温度を調整し、浴室との温度差の解消を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンが崩れない限り、気分に応じて自室や小上がりに準備した布団で休息したり、食事の時間や入浴の時間をずらして対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容及び副作用を周知し、表情や行動、生活状況の変化等の観察に努め、状況を主治医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干しやたたみ方、畑作業等、能力に応じて行っている。また、歌唱や歌謡曲等、昔の映像を流し楽しんでいただくとともに、入居者の話題になるように働きかけをしている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に応じてウッドデッキへお誘いし、そのまま周囲を散歩する事もある。コロナ禍のためドライブや短時間での買い物や、誕生日祝として本人希望で個別の夕食を行っている。	天気の良い日は、周辺の散歩をしている。ウッドデッキで外気浴をしたり、敷地内の畑作業をしている。春には花見のドライブをした。散歩中に近所の庭でサクランボ狩りを楽しんだ。誕生祝いの希望を聞き、ラーメンを食べに外出した方もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族了承の上、少額の現金を保持している方が1名おります。嗜好品については所持金から購入する事もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話についてはその都度対応している。遠方のご家族には預り金関係書類を郵送し、一緒に近況をお伝えしている。年賀状を出す際書ける方には名前だけでも書いていただいている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は室温や明るさを活動内容に応じて、変える工夫をしている。童謡や歌唱のBGMを流し、テレビに撮影した写真のスライドショーを映したりし、それぞれが楽しく過ごせるようにしている。	ホールはデイサービスと共用で歌やリハビリ体操、食事をする楽しい場所になっている。小上がりはデイ利用者の昼寝の場所を兼ね、寛げる場所となっている。切り絵の紅葉と鹿が壁面一杯に貼られ季節を感じる。開放場所を変えながら常時自然換気をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活室で過ごす方がほとんどで、それぞれ居場所ができています。時間ごとに場所を変えている方もおり、その時々表情や行動、仕草からその方より良い居場所や関わり方を工夫している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の思い出のある装飾品や、自作の絵やぬり絵、家族の写真などを飾っている。じゅうたんを敷き、よりご自分の過ごしやすい環境を作って工夫されている。	備品はベッドや整理ダンス、エアコンである。テレビや衣装ケース等を持ち込み、家族写真や遺影、木目込み人形等を飾っている。野球選手のポスターを眺めたり、切り絵をしたり、音楽を聞くなど思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの可能性を産出すように、言動を注意深く観察し、個々の能力に応じ、トイレの近くや視側空間無視の症状や見守り等の為に居室を配置したり、一息つけるように廊下にベンチを設置している。		